

**今シーズン（2017年12月～2018年1月）の忘新年会の動向を調査
予算は平均4,376円/回（前年比+50円）と2年ぶり増加想定
参加回数は「前年並み」だが
プライベートな相手との忘新年会は減少傾向続く**

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健）の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏の男女約1万人を対象として、今シーズン（2017年12月～2018年1月）の忘新年会についてのカスタマーアンケートを実施し、年末年始宴会シーズンの動向を発表いたします。

<要約>

POINT1 今シーズンの忘新年会への参加回数は「前年並み」の見込み

・・・ P3-5

- 3圏域（首都圏・関西圏・東海圏）合計では、忘新年会の参加予定回数の見込みは「昨年と変わらない」が79.4%と過去最多。今シーズンの忘新年会マーケットは昨年と大きく変わらないと予想される。

【参考】

前シーズン（2016年12月～2017年1月）の忘新年会の参加回数平均は、忘年会1.16回、新年会0.68回。

POINT2 1回あたりの予算は4,376円/回（前年比+50円）の想定

・・・ P6-7

- 今シーズンの忘新年会1回あたりの予算は、「5,000円～6,000円未満」（29.2%）と「3,000円～4,000円未満」（25.6%）が多く、平均想定額4,376円と2年ぶりに増加（前年比+50円）の予想。
- 圏域別では関西圏の想定額の上げ幅（前回調査4,296円→今回調査4,383円）が最も大きい（+87円）。

**POINT3 参加予定の忘新年会は「会社・仕事関係」が最多の43.5%
プライベートな相手との忘新年会の機会が経年で減少傾向**

・・・ P8-9

- 今シーズンに参加予定の忘新年会は「会社・仕事関係」（43.5%/前年比-0.6ポイント）が最も多く、続いて「友人・知人関係」（37.9%/前年比-0.7ポイント）だった。
- 積極的に参加したい忘新年会は「友人・知人関係」（31.0%/前年比-0.4ポイント）が最も多く、続いて「会社・仕事関係」（18.6%/前年比-0.4ポイント）だった。
- ここ6シーズンの推移を見ると、プライベートな相手との忘新年会は参加機会、積極参加意向とも減少傾向。特に東海圏では、プライベートな相手との忘新年会が少ない傾向。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

調査概要と回答者プロフィール

◎調査名 外食市場調査(2017年10月分)

◎調査方法 インターネットによる調査

首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、昨シーズンの忘年会・新年会についての実績や、今シーズンの意向などを聴取。

◎調査対象 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2017年9月21日(木)～2017年10月2日(月)
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 356,602 件
- ⑥回収数 37,915 件
- ⑦本調査対象者数 17,191 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付をおこなって回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セル について、平成27年国勢調査人口(総務省)に基づき割付をおこなった。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

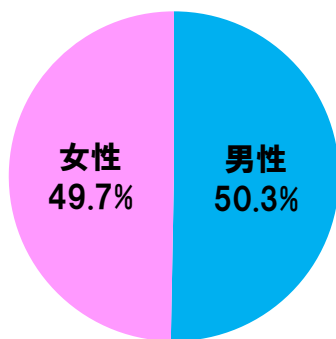
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
 - ②調査期間 2017年11月1日(水)～2017年11月8日(水)
 - ③配信数 13,158 件
 - ④回収数 10,148 件 (回収率 77.1 %)
 - ⑤有効回答数 10,069 件 (首都圏 5,110 件、関西圏 2,640 件、東海圏 2,319 件)
- ※回収された票のうち、自由回答コメントから、主旨に合わない判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、平成27年国勢調査人口(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計をおこなっている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 10,069 件(首都圏: 5,733 件、関西圏: 2,795 件、東海圏: 1,542 件)

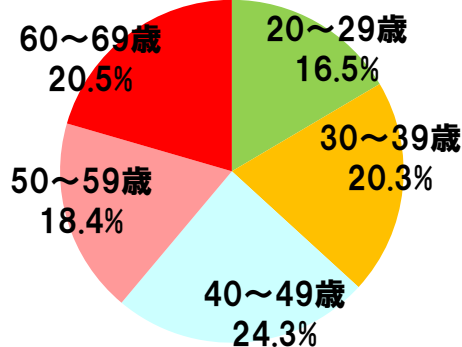
◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)

■性別



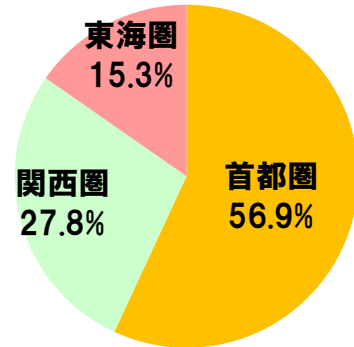
n=10,069

■年代



n=10,069

■居住地

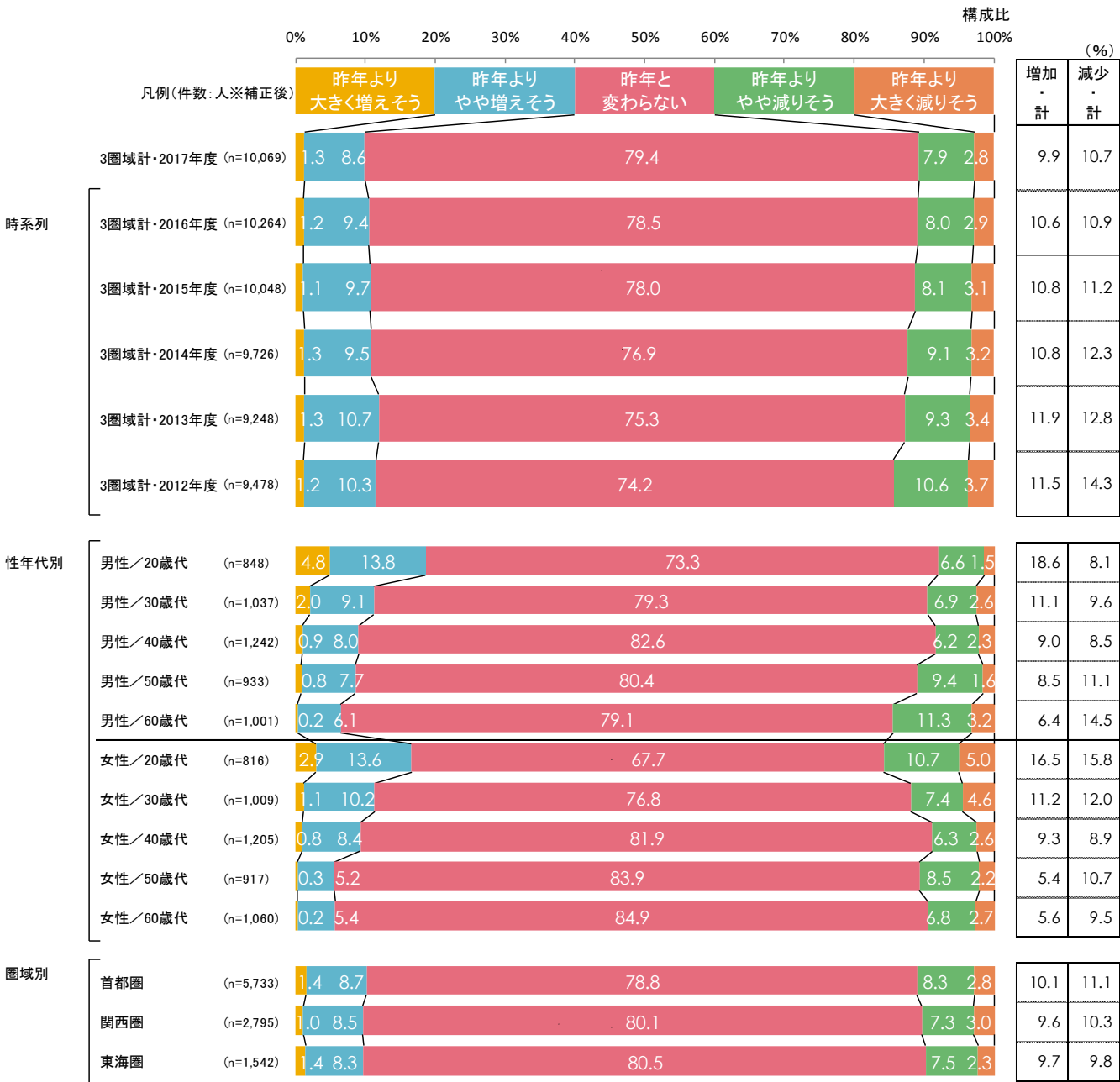


n=10,069

1. 今シーズンの忘新年会への参加回数は「前年並み」の見込み

今シーズン（2017年12月～2018年1月）の忘新年会の参加回数の見込みは「昨年と変わらない」という回答が首都圏・関西圏・東海圏の3圏域合計で79.4%（前年同調査では78.5%）と過去最高の数字を記録した。2012年の調査開始以来「昨年と変わらない」が増加傾向にある。「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」の増加派は計9.9%（前年同調査では10.6%）、「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」の減少派は計10.7%（前年同調査では10.9%）で、減少派が増加派を微妙に上回ったが、ともに前年数値に比べて減少し、全体として大きな変化はなさそうだ。過去5シーズンでは、「減少派」が「増加派」をわずかに上回る事前の見込みに対し、実際の参加の有無（次ページ参照）も見込み通り微減してきた。今シーズンもふたを開けたら微減、という可能性が高そうだ。

■ 今シーズン＜2017年12月～2018年1月＞の忘年会・新年会の参加回数の見込み（単一回答）

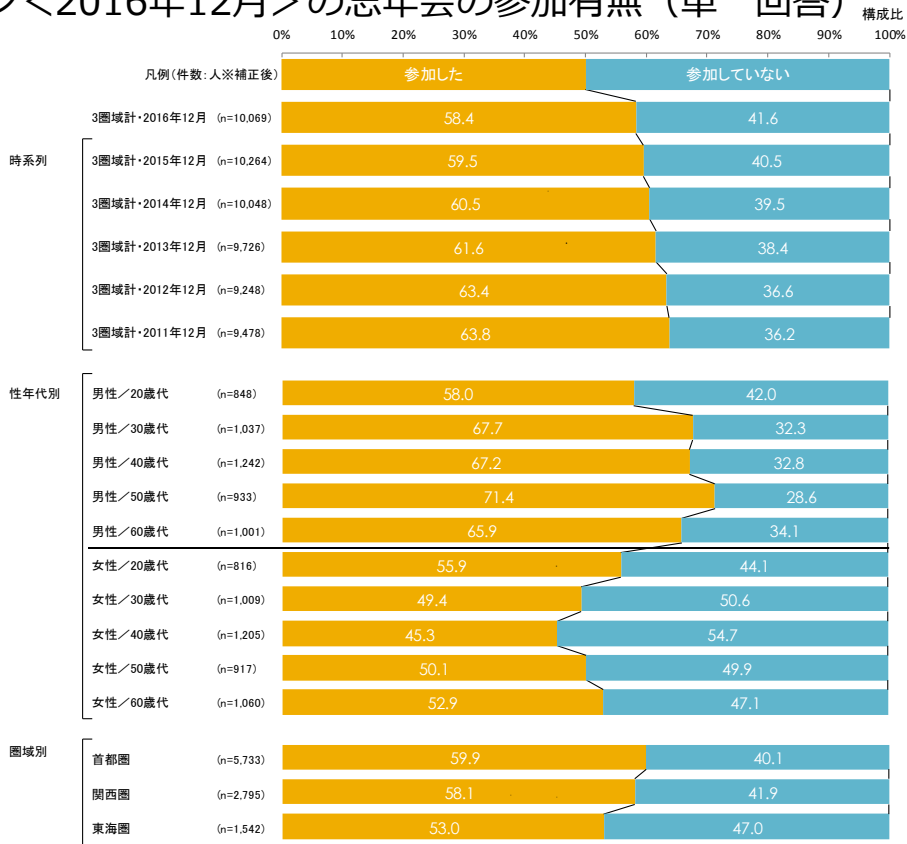


➢増加・計：「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」のいずれかを回答した人
➢減少・計：「昨年よりやや減りそう」「昨年より大きく減りそう」のいずれかを回答した人

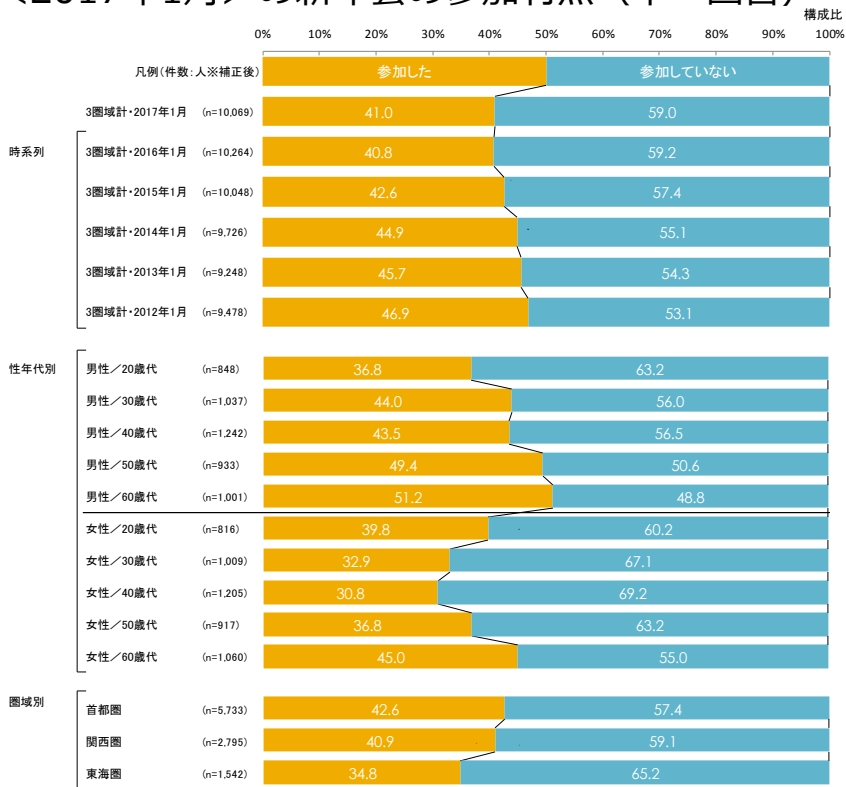
2.（参考）前シーズン【2016年12月～2017年1月】の忘年会・新年会参加有無

※今回(2017年)調査で聴取

■前シーズン＜2016年12月＞の忘年会の参加有無（単一回答）



■前シーズン＜2017年1月＞の新年会の参加有無（単一回答）

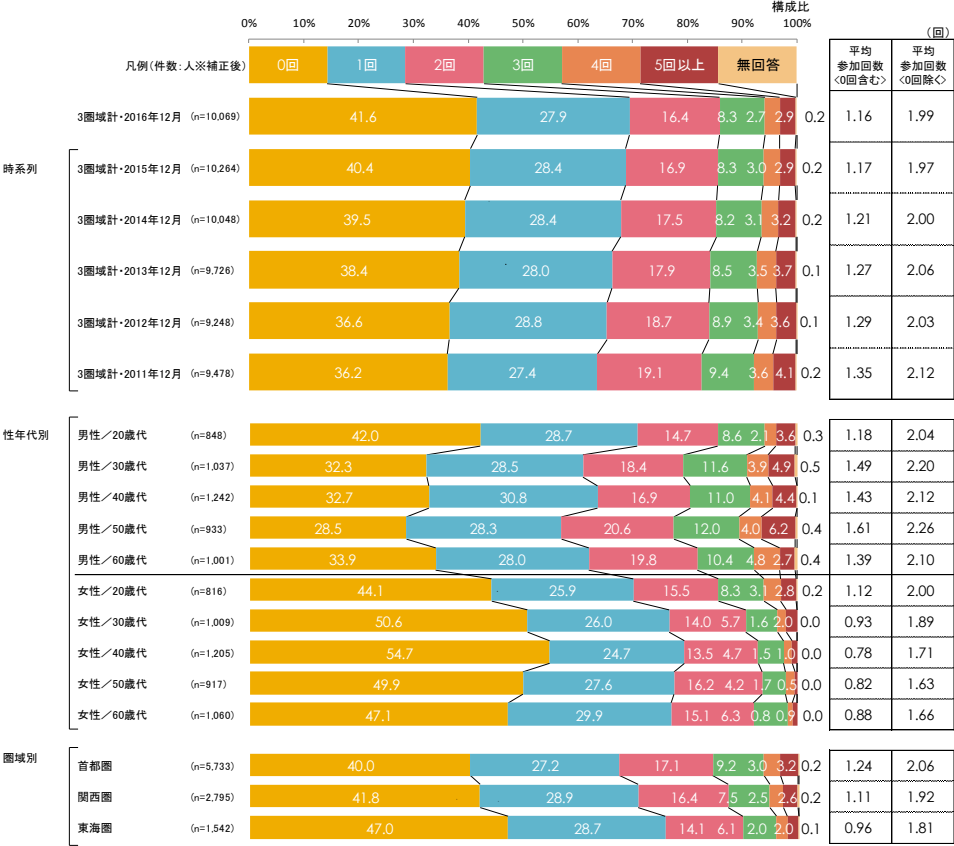


※「2016年12月、2017年1月の忘・新年会に参加した回数」の再集計（外れ値処理前のデータを使用）
▶参加した：「2016年12月上旬」～「2017年1月下旬」までの各時期のいずれかで1回以上を回答した人
▶参加していない：「2016年12月上旬」～「2017年1月下旬」までの全ての時期で0回を回答した人

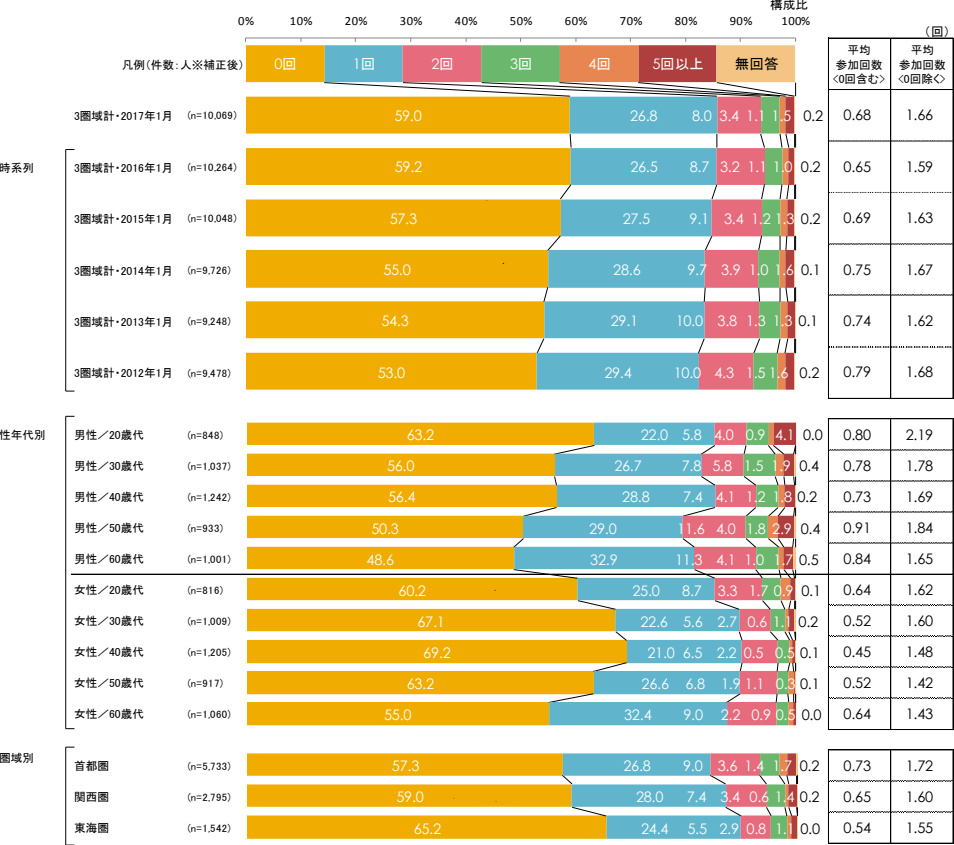
3. (参考) 前シーズン【2016年12月～2017年1月】の忘年会・新年会参加回数

※今回(2017年)調査で聴取

■前シーズン＜2016年12月＞の忘年会の参加回数（実数回答）



■前シーズン＜2017年1月＞の新年会の参加回数（実数回答）



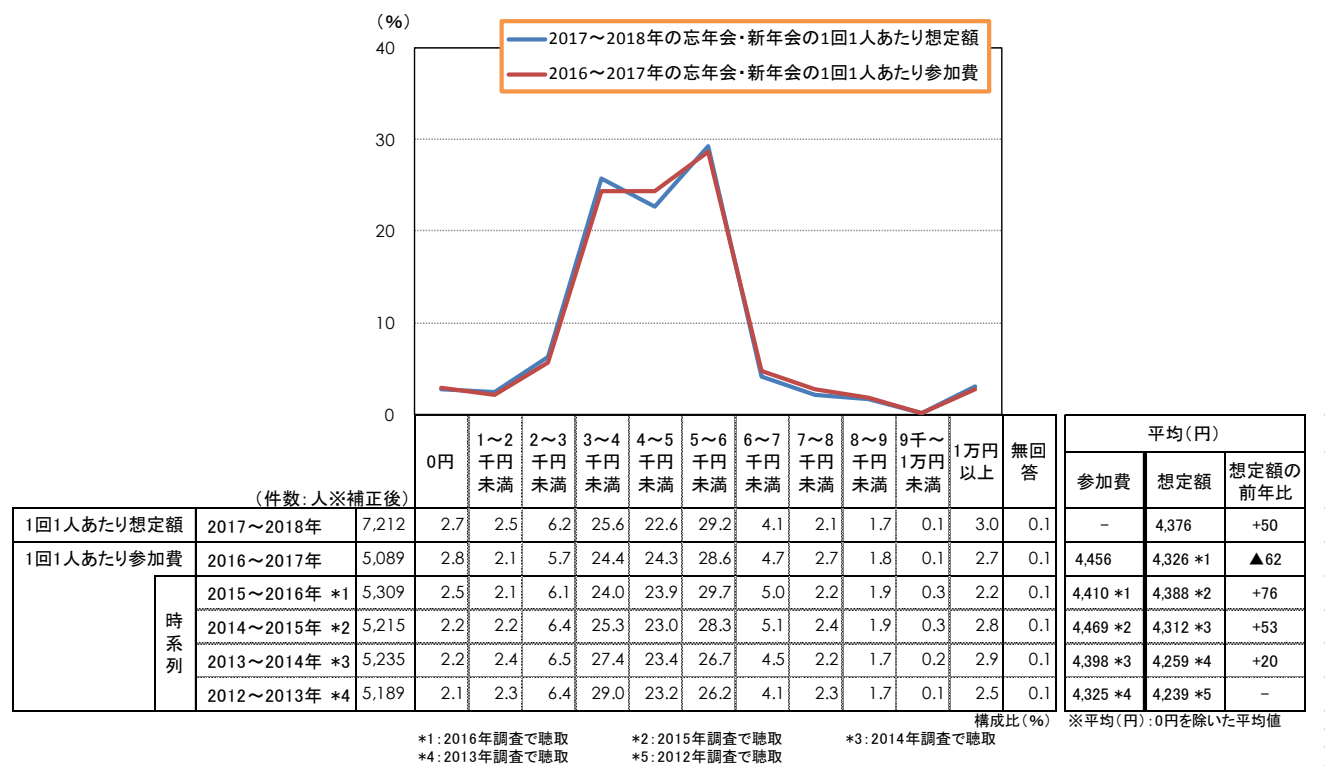
※「平均参加回数」は、外れ値として上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。

4. 1回あたりの忘新年会予算は2年ぶりに増加の見込み（+50円）。
圏域別では、関西圏で上げ幅が最大（前年比+87円）

忘新年会の予算について、前シーズンに実際に使った金額と今シーズンの想定予算額を聴取した。想定予算額では、1回あたり「5,000円～6,000円未満」（3圏域計：29.2%）と「3,000円～4,000円未満」（3圏域計：25.6%）の二つのボリュームゾーンがある。0円（自分では払わない）を除く今シーズンの想定額は4,376円（前年比+50円）と2年ぶりにプラス予想となった。実際に使った金額を見ると、前々シーズンに一度減少した後、前シーズンは再び増加に転じている。圏域別（次ページ）では、3圏域とも前シーズン比ではプラスの予測であるが、関西圏での上げ幅（前回調査4,296円→今回調査4,383円、+87円）が最も大きかった。また、前シーズンに実際に使った金額の比較でも、関西圏は首都圏、東海圏より単価が高かった。

■ 忘年会・新年会の支出実績と想定金額（2012年忘年会～2018年新年会）
（1回あたり参加費・実数回答）
※参加費は参加者ベース、想定額は参加する機会がありそうな人ベース

<3圏域計>



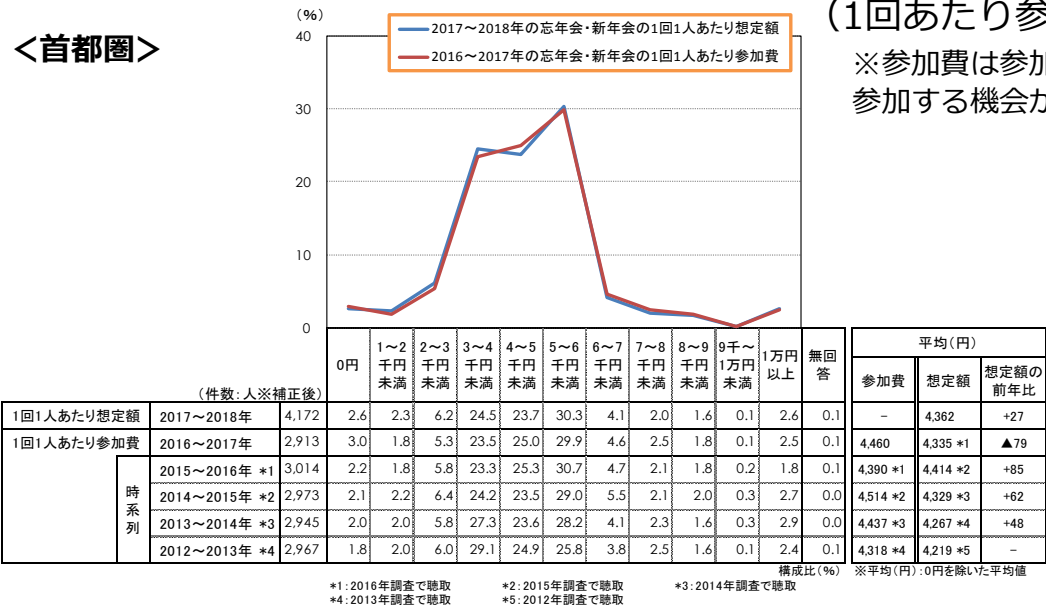
※平均は「0円（自分では払わない）」を除いて集計。
※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。
※想定額は「自分で払ってもいい額」として尋ねている。
※参加費は「自分で払ってなくても会にかかった1人あたりの金額」を尋ねている。

■忘年会・新年会の支出実績と想定金額
(2012年忘年会～2018年新年会・圏域別)

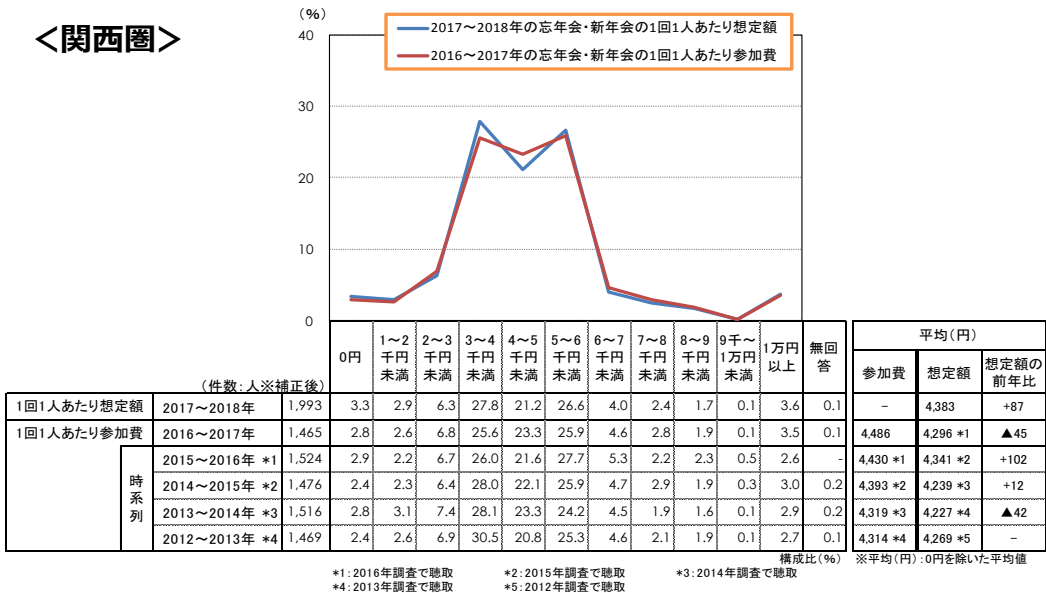
<首都圏>

(1回あたり参加費・実数回答)

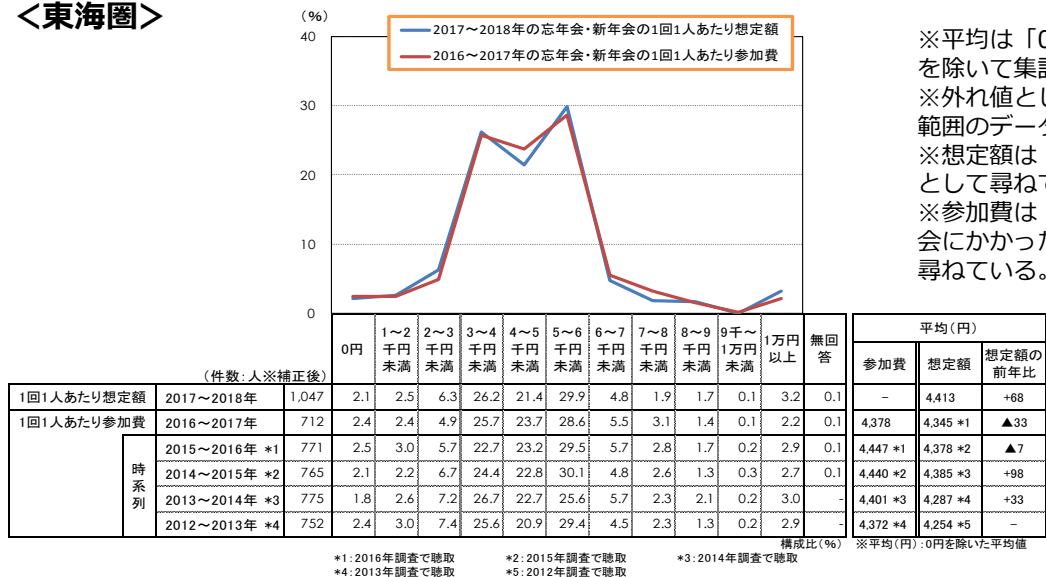
※参加費は参加者ベース、想定額は参加する機会がありそうな人ベース



<関西圏>



<東海圏>

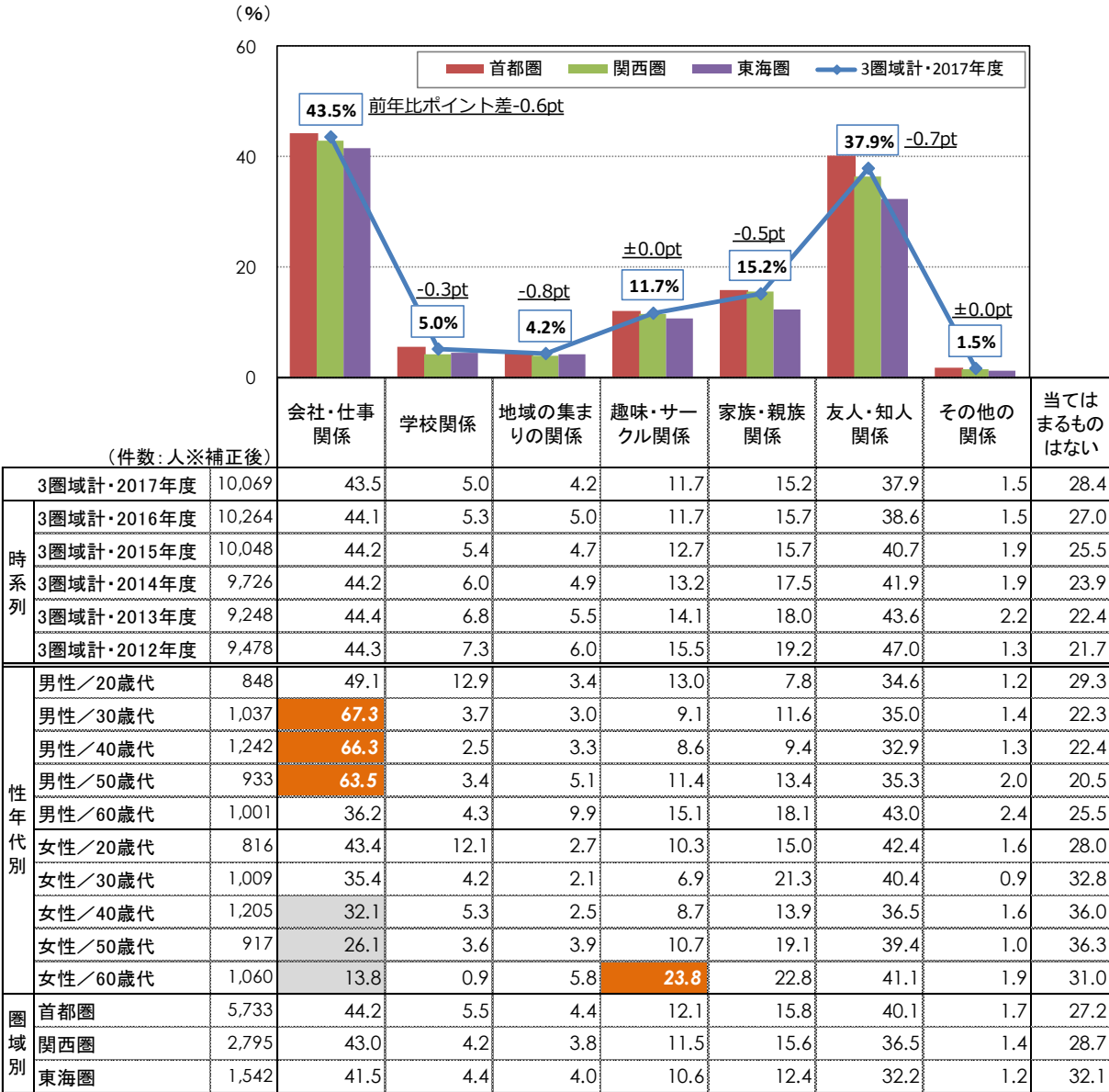


※平均は「0円（自分では払わない）」を除いて集計。
※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。
※想定額は「自分で払ってもいい額」として尋ねている。
※参加費は「自分で払ってなくても会にかかった1人あたりの金額」を尋ねている。

5. 「プライベート」な相手と実施する忘新年会が5シーズン連続減少傾向

今シーズンの忘新年会を誰と行うか聴取した結果、3圏域合計で最も多かった相手は「会社・仕事関係」で43.5%、次いで「友人・知人関係」が37.9%だった。前シーズンの調査と比較すると、「会社・仕事関係」は0.6ポイントの減少で過去5シーズンの調査結果と比べても最低値。一方、「友人・知人関係」も-0.7ポイントと2012年～2013年シーズンから年々減少していることがわかる。他に「地域の集まりの関係」（前年比-0.8ポイント）、「家族・親族関係」（前年比-0.5ポイント）、「学校関係」（前年比-0.3ポイント）でも減少が見られた。また、圏域別では、首都圏・関西圏に比べると東海圏は「友人・知人関係」「家族・親族関係」「趣味・サークル関係」などで3圏域平均との数値の乖離がやや大きく、プライベートな相手と実施する忘新年会が少なめという圏域の特徴が例年通り見られる。

■今シーズンに参加する機会がありそうな忘年会・新年会の関係（複数回答）



単位: 構成比 (%)

太字 3圏域計より10ポイント以上高い項目

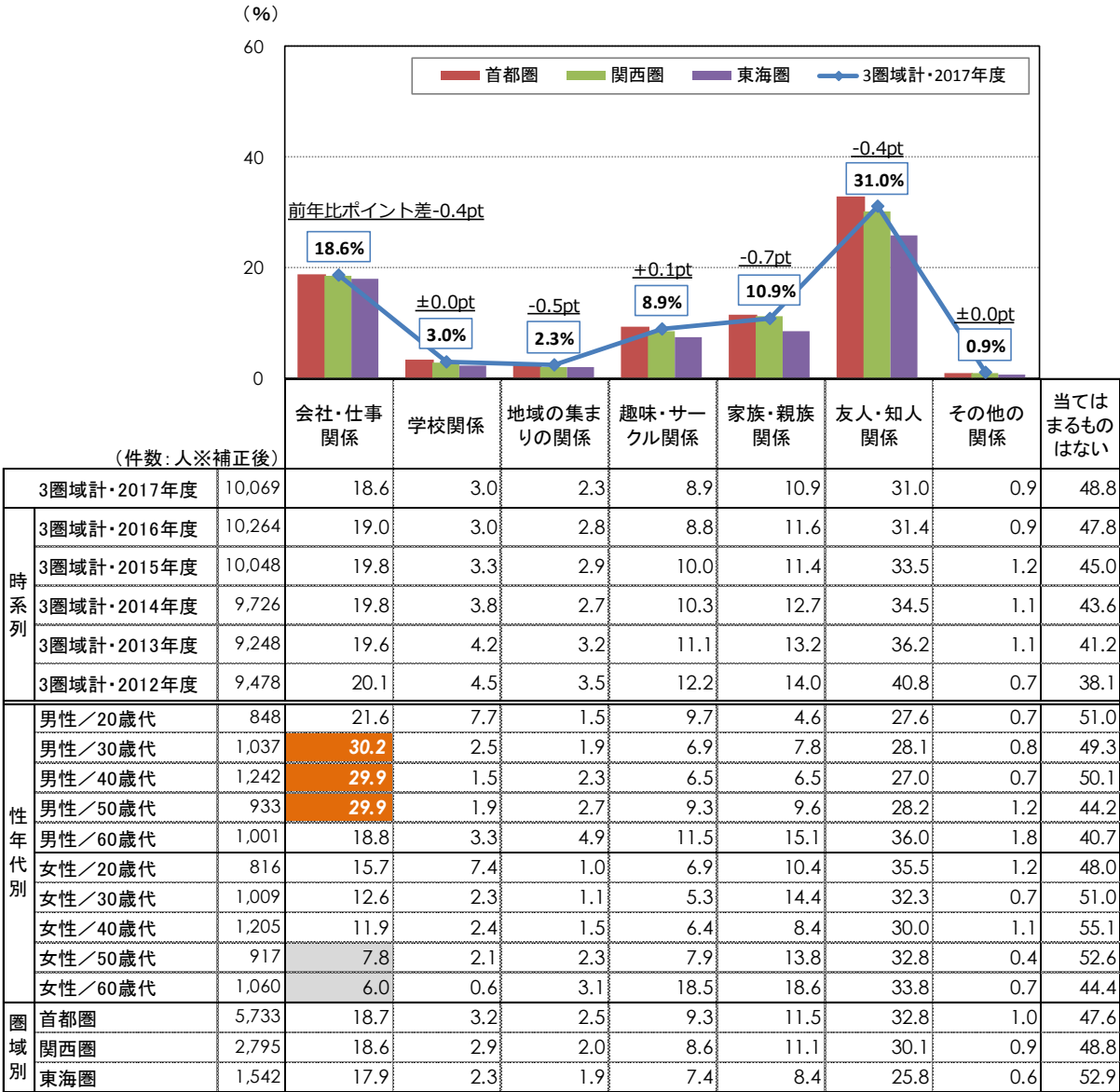
3圏域計より10ポイント以上低い項目

※「3圏域計・2016年度」は2016年調査、「3圏域計・2015年度」は2015年調査、「3圏域計・2014年度」は2014年調査、「3圏域計・2013年度」は2013年調査、「3圏域計・2012年度」は2012年調査で聴取したもの
※前年比ポイント差:「(3圏域計・2017年度)-(3圏域計・2016年度)」で算出

6. 忘新年会に積極的に参加したい相手との関係性では、「趣味・サークル関係」が前年並み。「家族・親族関係」がマイナス幅最大

今シーズンの忘新年会で「積極的に参加したい関係」を聴取したところ、「友人・知人関係」が3圏域合計で31.0%と最も多かったが、前年比では-0.4ポイントの減少（5シーズン連続の減少）であった。「会社・仕事関係」は参加機会が多い（前ページ参照）割には、積極的に参加したい割合は低めで18.6%。また、「趣味・サークル関係」は全相手中唯一の微増した相手で8.9%（前年比+0.1ポイント）であった。逆に、「家族・親族関係」は10.9%（前年比-0.7ポイント）と全相手中、最もマイナス幅が大きかった。圏域別には、ここでも東海圏でプライベートな関係の相手との忘新年会への積極参加意向が低いというデータが出ている。

■今シーズン、積極的に参加したい忘年会・新年会の関係（複数回答）



単位:構成比(%)

太字 3圏域計より10ポイント以上高い項目 3圏域計より10ポイント以上低い項目

※「3圏域計・2016年度」は2016年調査、「3圏域計・2015年度」は2015年調査、「3圏域計・2014年度」は2014年調査、「3圏域計・2013年度」は2013年調査、「3圏域計・2012年度」は2012年調査で聴取したもの
※前年比ポイント差:「(3圏域計・2017年度)-(3圏域計・2016年度)」で算出